EULER HERMES Credit Insurance

COUNTRY RISK WEEKLY BULLETIN

20 August, 2008

IN THE HEADLINES

パキスタン

ペルベス・ムシャラフ大統領が辞任することになり、その必要性が認識されていた弾劾問責は取り消しとなる見込みだ。(米国、サウジ・アラビアを含む)国外助言者の大方と国内ブローカー(とりわけ軍部)が、そうした戦略に肩入れする助言を行ったものと思われる。もっとも、ムシャラフの辞任はより好ましい政治情勢をもたらしそうにはない。まず、後任大統領が必要である(権限が制限された名目的な人物になると思われる)。第二に、ムシャラフに対する敵意は、与党連立政権を結束させる原動力となっている。彼の存在がなければ、PPPとPML-N間の政策、人事上の相違は拡大するものと思われ、統治力に影が差すことになりかねない。

パラグアイ

先週、前司教で独立候補のフェルナンド・ルゴが大統領に就任した。ルゴ大統領は、パラグアイ政治体制の殻を破り、61年振りにコロラド党出身ではない大統領となった。変革への期待は、特に土地改革をめぐって、貧困層や原住民の間でとりわけ高いものになるだろうが、左傾的立場をとる新大統領としては、いくつかの難題に直面している。なかでも、APC連立政権の舵取りは難を要するものと思われる。さらに、APCは議会で過半数を制する状況にはない。もっとも、大統領は、正統派で経験に長けたテクノクラートを外相に任命し、これまでのところは急進左派というよりかなり実務的な方向を模索している。

香港

第2四半期の実質GDPの伸長は、対前年比で4.2%に下落して(第1四半期は7.9%)ほぼ5年振りに最低値を記録し、大方の予想以上に悪いものとなった。個人消費は3.1%に落ち込み(第1四半期は7.9%)、投資は4.3%へと下降した(第1四半期は9.9%)。輸出の伸びも4.9%に減速するものと思われ、2002年初頭以降最悪となるが、輸入伸長も鈍っている。個人消費は、2008年後半かけてそれなりの勢いを保つ見込みで、公共支出も成長がさらに落ち込むとなれば増額される可能性もあるが、GDP成長率は2008年の残余期間と2009年を通して低めにとどまるだろう。シンガポールの成長急落や中国本土の景気減速を示すデータと相まって、地域的な著しい下落が進行しているようである。

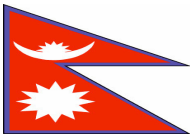
エストニア

実質 GDP は、消費者が支出を控え、企業部門もコストの高騰と外国からの融資がより逼迫する圧力にさらされる中、第 2 四半期は対前期比で 0.9%(速報推定値)収縮し、対前年比では 1.4%となった。こうした状況は、一時の過熱経済から景気後退へ向かっているとする従前の予測を裏付けるもので、経済は第 1 四半期にもやはり(対前期比で 0.5%)落ち込んでいる。信用リスク、不良債権、破産は増えることになるだろう。もっとも、無視できるものではないが、銀行業界のリスクと為替レートの危機は、隣国のラトビアと比べれば低いように思われる。実際、エストニアの銀行制度と固定為替相場制は、双方ともよりしっかりとしたものに映っている。

ALSO IMPORTANT…

クウェート

財務省によると、2007／2008会計年度の政府予算は、過去最高となる93億クウェート・ディナール(330億米ドル、対前年比23%増)の財政黒字を計上したが、これは2007年度GDPの29%にあたるものであった。慣例として、収入の10%は次世代準備基金(RFFG)に割り当てられている。政府の投資収益(主に国有クウェート石油公社の配当利益と政府の対外投資リターン)は含まれていないため、国家準備金の純増額分はさらに予算数値が示すもの以上になると思われる。結果的に、国家として潤沢な流動性を備えることになるため、経済要因から生じる負債の支払い拒絶リスクは限定的なものになると思われる。



ネパール

制憲議会は、プシュパ・カマール・ダハール(通称プラチャンダ＝「獰猛なやつ」)を首相に選出した。マオイストで元ゲリラ指揮官だった新首相だが、出身政党が議会の小規模グループ二派との同盟を取り付けたことを受け、その地歩は比較的安定したものとなっている。もっとも、政治的な行き詰まりが直ちに解消されることはないだろう。まず、内閣人事は権力分担政権を樹立する目的から三党間で割り当てられることになるため、活発なロビー工作が予想される。第二に、明確な政治的議題が未だに合意を見ておらず、(憲法改正を含めた)物議をかもす問題が穏やかな制度移行にとって将来的に足かせとなる可能性がある。

COUNTRY REVIEW SUMMARIES

セントルシア

同国の上流中産階級所得経済の基盤(バナナと観光)は脆弱で、熱帯暴風雨の損害を受けやすい。島国である同国の主要指標は要素が混交しているが、悪化傾向を示すものとなっている。財政赤字は2007年に2.1%まで削減されたものの、公共負債／GDP比率は80%を超えている。経常赤字はGDPの30%を上回るまでに拡大しているが、2007年は80%が外国直接投資で補われた。金融政策は東カリブ通貨同盟により設定されており、安定性という点では申し分ない経緯を示しているものの、インフレは加速化している。対外債務は比較的低いが、短期債務は外貨準備高を上回っている。さらに、実質GDPの伸長は2008年から2009年にかけて著しく減速するものと思われる。

ガボン

オマール・ボンゴ大統領は引き続き政治権力を支配しており、それなりの一貫性をもたらし、系統的な政治リスクも低くなっている。それにひきかえ、経済は多様化しておらず、石油輸出に過度に依存する体制(総輸出の86%)となっているため、長期的で持続可能な成長が阻まれている。もっとも、ここ数年の高い財政・経常黒字と、2008年初頭に実施したパリクラブからの大規模な債務買い戻しは、短期的に望ましい展望をもたらしている。さらに、CFAフラン圏の加盟により送金リスクもほとんど排除されている。とはいえ、ビジネス環境は今後も平均をかなり下回る状況にとどまるだろう。

IN BRIEF

エクアドル	9月28日に憲法改正国民投票が実施されることになった。
ザンビア	7月に脳卒中に見舞われたレビ・ムワナワサ大統領が昨日死亡したことを受け、若干の政情不安が予想される。

Edited by Andrew Atkinson

The content of the report (which is subject to change without notice) reflects only our opinion, which is based on information received by us. Accordingly no warranty, representation or other assurance is given as to the accuracy or completeness of the report. The report is for general information and is not intended to address any requirements you may have, for which you must obtain independent advice. The report does not constitute any form of advice, recommendation or arrangement by Euler Hermes UK plc or by the Euler Hermes Group of Companies and must not be relied upon in the making of any decision, agreement or arrangement. © **Euler Hermes UK plc 2008.**